

## 子供読書活動支援の充実に向けて ～シニアによる読書ボランティアを考える～

青少年健全育成領域 吉 岡 滋

### 概 要

今日、我が国は少子高齢化を迎え、私たちの暮らす社会は大きな転換期を迎えている。現在は国民の4人に1人が65歳以上の高齢者であるが、これが2060（平成72）年には国民の約2.5人に1人となる社会が到来すると推測されている。また、我が国で1年間に生まれる子供の数は減少を続けており、2012（平成24）年の合計特殊出生率は1.41となっている。

こうした状況は、教育を取り巻く環境にも大きな影響を与えており、家庭、学校、地域はそれぞれに多くの課題を抱え、3者の連携協力が以前にも増して強く求められている。

そのような中、国民の読書活動は減り続けており、文化庁の「平成25年度国語に関する世論調査」によれば、「1ヶ月に本を1冊も読まない」と回答した人は47.5%にのぼり、約10年前に比べ10ポイント増えている。また、「以前に比べて読書量が減った」と回答した人は65.1%、うち26.3%の人が読書量が減った理由に「情報機器で時間を取られるから」と答えている。

子供たちにとって読書は、想像力や考える習慣を身に付け、豊かな感性や情操、思いやりの心を育てる上で欠くことのできない大切な営みであり、幼少期からの読書体験が極めて重要である。子供たちの読書の効果については、国立青少年教育振興機構が2012（平成24）年に実施した「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」においても明らかで、調査対象である中学生、高校生、成人ともに、子供のころに読書活動が多い人ほど「社会性」、「自己肯定」、「文化的作法・教養」、「市民性」の全てにおいて、現在の意識・能力が高いという結果が示されている。

2008（平成20）年2月の中央審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」は、「社会全体の教育力向上の観点から、各個人が学習した成果を地域社会における様々な教育活動に生かすことが期待されている」と指摘した。

私は、退職後これまで徳島大学大学開放実践センターにおいて様々な公開講座等を受講し学習を積み重ねてきた。また、公開講座受講生の同窓会組織である「六一会」の「読書倶楽部」に参加して読書推進活動に関わってきている。こうした経験を踏まえ、今後、シニア世代の人たちと子供たちを読書でつなぐシステムを構築できないか、その可能性を探ることとした。

そのため、まずは徳島県内、及び全国における子供の読書活動を推進する取組事例の調査を実施した。その結果を踏まえ、現在徳島県立図書館において子供たちに対する本の読み聞かせ活動に参加している。今後は、シニア世代の持つ知識や経験を生かしながら、徳島県内の子供たちの読書活動の推進に関わる人たちの輪を一層広げるため、「シニア読書倶楽部」を発足させたいと考えている。